

第4条関係

提案内容
■公園名*³ 深草東公園
① 現状の課題（自由記述） 深草エリアは複数の大学や語学学校を擁し、多様な年齢・国籍の住民、そして新旧の世帯が共に暮らす多文化共生の街ですが、日常的に多世代が自然に交わりコミュニティを形成する場が不足しています。対象となる深草東公園は、地域の貴重な公共空間でありながら、現在はボール遊びが実質的に制限されているなど、多様な住民の活動機会やコミュニケーションを誘発する場として十分に機能していません。その結果、地域住民間の関係性が緩やかに分断され、公園が持つ本来の滞留機能や、地域社会による見守り効果が十分に発揮されていないことが大きな課題となっています。
② 公園をこんな場所にしたい（自由記述） 私たちは、深草東公園を「多世代が自然に集い、誰もが安心して過ごせる地域のリビング」のような場所にしたいと考えています。そのために、公園と隣接する民間施設を一体的な空間として捉え直し、民間事業者との柔軟な連携によって境界を意識させないシームレスで開放的な空間へと変革します。日常的な人の流れや「人の目」を公園内に呼び込むことで、子どもたちが安心して遊べる自然な見守り環境を整えます。心地よい休憩機能や交流を促す仕組みが備わり、地域住民が孤立することなく、日常のおしゃべりや助け合いが生まれる、活気と温かみのある公園を目指します。
③ 公園でやってみたい活動提案*⁴（自由記述） 【タイトル】 民間のノウハウを活かした「公園の利便性向上と地域連携イベント」 【内容】 民間事業者との連携による「日常的な見守り・休憩スペース」 隣接する民間施設と公園の空間を一体化させ、利用者が気軽に立ち寄れる休憩・コミュニティ機能を展開します。民間事業者の日常的な活動がそのまま公園の「人の目」となり、子どもの見守りや防犯に貢献する持続可能な仕組みをつくります。 多世代・多文化が交わる「地域交流マルシェ」の開催 愛護協力会が主体となり、民間事業者や地域の学生、外国人住民とも協力しながら、定期的な交流イベントを開催します。地域のつながりを深めると同時に、普段公園を利用しない層にも足を運んでもらうきっかけを創出します。 プロスポーツチームや大学と連携した地域活性化プログラム 京都ハンナリーズや龍谷大学など近隣の資源と連携し、子ども向けのスポーツ教室や健康増進イベントを開催します。地域の町内会とも連携し、防災訓練の炊き出しや季節行事の場としても公園を機能させます。

第4条関係

④ 希望する内容にチェックしてください。 ☒ 地域独自の利用ルールを創りたい。(フェーズ1) ☒ サポート団体との連携をしていきたい。(フェーズ2) ☐ 公園に地域の交流・活動拠点となる施設を造りたい。(フェーズ3) ☐ その他
添付書類 ☐ 活動実績報告書(様式自由) *Park-UP 事業実施要綱第4条第1項(3)に該当する団体のみ添付
☒ <u>Park-UP 事業実施要綱等に記載の内容を承知のうえ、応募します。</u> <u>なお、応募条件に抵触しておらず、かつ提案主体としての資格を有することを誓約します。</u>